

今回のテーマ

リスクの ものさし

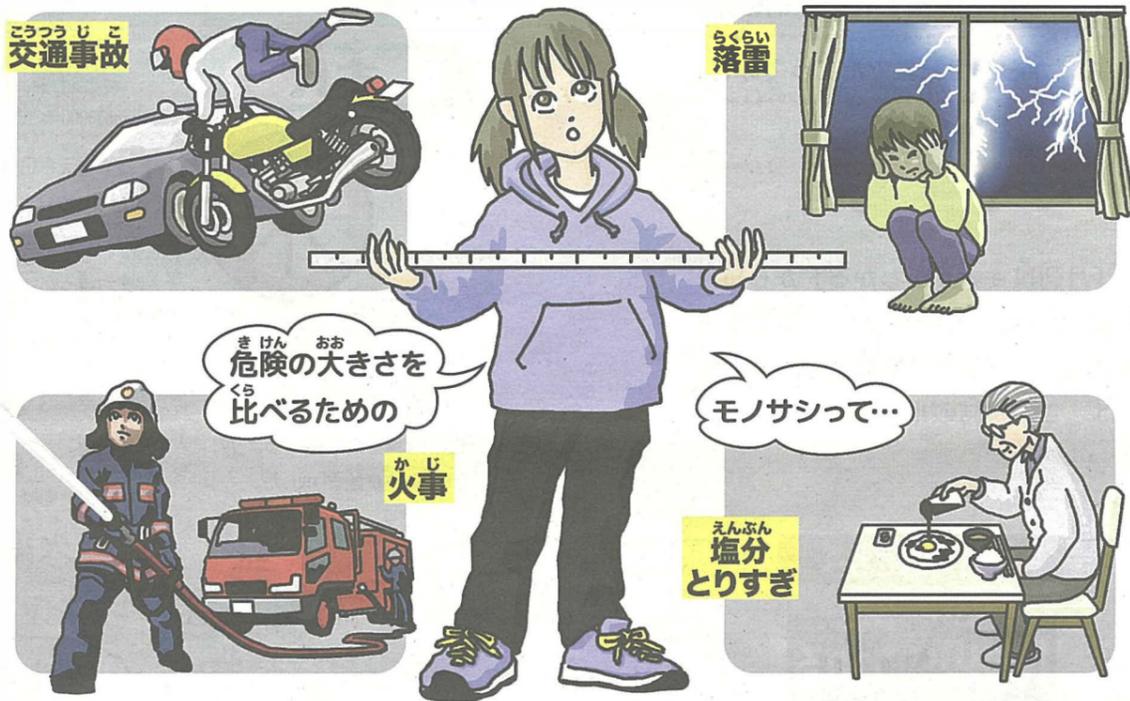


No.132

世の中の危険を分析して比較する

テレビなどで「リスク」って言葉を聞いたことはありませんか？ リスクは、起きてほしくないことが起きる可能性（確率）と考えることができます。私たちの生活には、交通事故や病気、気候変動、自然災害、化学物質汚染など、さまざまなリスクの原因があります。これらが実際にどのくらい危険かを分析することを「リスク評価」と呼んでいます。

産業技術総合研究所（産総研）は、化学物質のリスク評価研究を行っています。化学物質がどのくらい危険なのかを考えるために、まず、リスクの大きさを比べるための共通のものさしが必要です。人の健康へのリスクを評価する場合、起きてほしくない「死亡」をものさしにして、他のリスクとよく比べられます。「ある化学物質Aを毎日*米*を*米*ずつ体に取り込んだ場合に亡くなる人数」を「交通事故で亡くなる人数」や「落雷で亡くなる人数」などと比べれば、化



学物質Aの危険性を大まかにつかむことができます。

リスクは掛け算

ここで大切なのは、化学物質Aのリスクは、「（死亡につながる）毒性の強さ」と「体に取り込む量」の掛け算になるということです。毒性が強い物質でも、体に取り込む量が十分に少なければリスクは小さい

と判断できます。これがわかると、「食品Bから化学物質Cが見つかりました」というニュースには、リスク評価に必要などんな情報が欠けているかに気づけると思います。

自動車や化学物質などの利用が私たちの生活に不可欠であるように、私たちは意識的・無意識的にリスクを受け入れながら生活しています。この事実を

意識するだけで、リスクのとらえ方が変わるかもしれません。

発展途上の学問

皆さんの中には、死亡者数をものさしにして気候変動や自然災害のリスクを比べられるのかと疑問を感じた人もいます。実際、その通りで、リスク評価にはまだ挑戦しがいのある課題が残っています。

今日の先生



岩崎 雄一さん

「リスクじゃなくて自分に嫌なことが起きるか起きないかを教えてほしいんだという気持ちもよく分かります」

産業技術総合研究所（産総研）安全科学研究部門。専門は、化学物質が水生生物に及ぼす影響の評価。出身小学校は高知県香南市立野市小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国12か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら →
（さんそうけんサイエンスタウン）

